

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500168		
法人名	有限会社 とーか		
事業所名	グループホーム とーか		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
自己評価作成日	平成26年3月28日	評価結果市町受理日	平成26年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年4月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとーかは昨年10周年を迎え、毎年開催しているとーか祭では周南社協にご協賛いただき、地域の方のたくさんの来客もあり例年以上に盛り上がりました。勤続年数が10年を迎えたスタッフも4名おり、ベテランスタッフが多数で定着しております。周辺の住宅地が整備されたことで、人通りが増え、子どもの声も沢山聞こえるようになりました。道路も整備されたことで、お散歩の機会も増えています。昔から暮らしておられる地域住民の方に加え、新しく越してこられた方々も避難訓練やとーか祭などにご参加いただき、益々にぎやかになりました。ご利用者の方におかれましては、年々高齢化が進んでおり、それに伴い介護度の高い方も増えてきています。そのため、より個別化を目指したケアにスタッフ一同、日々取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月10日に開催される「とーか市」では利用者が展示や販売の仕事に関わっておられ、喜びを感じたり、地域の人との交流を深めたり、事業所内託児室の幼児とふれあわれるなど、利用者が元気で楽しく過ごせるよう「元気な気持ちで一日一回は笑って戴き、それを継続していく」という事業所理念に基づいた支援をしております。毎月、利用者の日々の健康状態や活動状況の報告と一緒に「とーか便り」や個別のお便り、写真を家族に送っておられる他、3ヶ月毎に開催される自主的な家族会活動などで、家族と職員との連携を深めておられます。毎年開催される「とーか祭」や毎月開催される「とーか市」には、ボランティアやお客様として地域の多くの人たちが参加されている他、避難訓練時には、利用者の見守りや消火訓練に近隣住民の参加を得ておられるなど、地域との協力関係を深めておられます。職員の意欲向上と意見を聞く機会として「とーか検定」を実施されたり、業務改善につながる提案や行動をされた職員を月間MVPとして表彰される他、勤続年数に応じた表彰や資格取得への支援、託児室の設置など、働きやすい職場環境づくりのための工夫に取り組んでおられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○	67	職員は、生き活きと働けている ○
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	と一かの理念が「惜福・分福・植福」であることはスタッフ全員が認知しています。施設長、管理者はその理念に基づいたケアができるよう、職員会議等で折に触れ話をしています。	法人の理念を事業所内に掲示し、それを基に「元気な気持ちで一日一回は笑って戴き、それを継続していく」という事業所理念をつくっている。職員会議等で話し合い、運営者、管理者、職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	と一か祭、と一か市等地域の方がお越しいただきやすい行事の開催。スタッフによる近隣へのゴミ拾い、買い物は近所のスーパーを利用。外出の際には積極的に挨拶し、近隣の方と交流しています。	自治会に加入し、近隣のゴミ拾いや地域の土手そうじなどに、職員が参加している。地域の神社の行事に利用者と職員が出かけている。他、スーパーでの買い物や散歩時に挨拶を交わすなど、日常的に地域の人と交流している。事業所が毎年開催する「と一か祭」や毎月10日開催の「と一か市」には、地域から多くの参加者があり利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内研修への参加の呼びかけをさせていただいています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果は全職員で共有し、改善すべき事項については早急に改善するよう努めています。毎年自己評価を各々で行なうことで仕事への取り組みを再認識できます。	運営者、管理者、職員は評価の意義や目的を理解しており、今回の自己評価は各職員が個々に取り組み、管理者がまとめている。サービスや業務を振り返る機会としているが、項目の理解や職員間の共通理解は十分とは言えない。評価結果は全職員で共有し、改善に努めている。	・評価項目の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。会議での意見は職員会議を通じて全スタッフへ報告、活用しています。	参加メンバーは9人程度で、地域の福祉員やボランティアも加わり、2ヶ月に開催し、事業所の状況や活動を報告して、意見交換をしている。会議での意見は職員会議でも取り上げ、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に市の担当者の方に出席して いただき、施設の運営にご理解いただくと ともに、不明な点などはその都度担当の方 へ質問するなどし、連絡を密に取っていま す。	市担当課と運営推進会議の他、日頃から出 向いたり、電話で事業所や利用者の状況を 伝え、疑問点を相談したり、情報を得るなど して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の門扉は常時開放していますが、利用 者の状態、スタッフの人員の関係などで利用 者の方に危険を及ぼすと判断される際には 一時的に施錠することがあります。その際 には職員間で連携し、施錠しっぱなしになら ないよう努めています。身体拘束は0。転倒の 危険のある方へはセンサーや鈴などを使用 し拘束することの無いよう配慮しています。	代表者及び全ての職員は身体拘束について 正しく理解しており、身体拘束しないケアに 取り組んでいる。玄関の施錠は基本的に行っ ていないが、利用者の状況や職員の人員配 置等によりやむを得ず施錠する場合は、速 やかに開錠するように努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所 内の虐待が見逃されることのないよう注意を 払い、防止に努めている	入浴時などにはボディチェックを行い、傷 等を確認した際にはスタッフ間で原因を追 究し、利用者の方の言動等にも注意し、些 細なことも見逃さないよう努めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個 々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	職員には冊子回覧で勉強してもらいま した。現在対象者はおられません。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十 分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定後社長・施設長より説明、契 約を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反 映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付 体制や処理手続きを定め周知するととも に、意見や要望を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている	3ヶ月に1回家族会を開催し、家族から のご意見、ご要望を伺っています。また 面会時などにご意見を頂いた際には責任 者へ報告、敏速に対応するよう努めてい ます。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利 用者や家族に説明している。3ヶ月毎に 開催している家族会や運営推進会議時、 面会時、電話などで家族の意見や要望を 聞いて、施設長や管理者に報告し、職員 間で共有して、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の活用。社長や施設長も利用者、スタッフと食事を摂ったり、慰労会やスタッフの誕生会の開催などスタッフと運営者とが話をする場を積極的に設けています。	月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常の業務の中で聞いている。職員の慰労会や誕生会、食事会などに運営者も参加し、意見を言いやすい雰囲気づくりをして、職員の働きやすい環境づくりなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議の場において、今月のMVPを決定。勤務年数によりスタッフへの勤務報奨などスタッフの努力を形にして賞賛することで意欲の向上を目指しています。今年は10年継続勤務の4名のスタッフが表彰されました。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は積極的に参加、できるだけ希望するスタッフに参加してもらったり、必要と思われるスタッフへ参加してもらうよう配慮しています。施設内研修も随時開催しスタッフの育成に努めています。	外部研修は、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。内部研修はテーマを決めて、外部講師（傾聴ボランティア、医師会等）を招くなどして実施している。資格習得の支援など、働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周南地域のグループホーム連絡協議会への参加。スタッフへ個別に口頭でできるだけ参加するよう呼びかけ、今年度は多くのスタッフが研修に参加しました。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。センター方式を活用して把握し、サービス計画に活かすよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ入所段階にない方についてはケアマネと相談しサービス提供を支援しています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方を「人生の大先輩」として敬うことを常に意識し接しています。10時、15時のおやつの際は利用者の方と一緒にお茶をし、ニーズの把握に努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医への受診については基本的にはご家族の方に対応していただいています。お墓参り、美容院などの外出や行事等へも積極的にご参加いただき、ご利用の方を共に支えていただけるよう支援しています。また盆正月はできるだけ外出・外泊を依頼していますが、近年では外泊は困難となってきてます。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩の際に馴染みの場所へ行けるようお手伝いさせていただいています。	友人や知人の来訪がある他、ドライブや散歩のときに馴染みの場所を訪問したり、家族の協力を得て、馴染みの寺社への参詣をしているなど、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業などを通じて利用者同士が関われるよう支援したり、トラブルが懸念される際にはスタッフが仲介。孤立されている方には積極的に声をかけ、他利用者の方と良好な関係が築けるよう支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所の際にはお見舞いに伺ったり、退所後であってもと一かの行事をご案内して、関係が継続できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの何気ない意見なども聞き逃さず、知りえた情報は担当者会議においてスタッフ間で共有しケアに活かしています。	日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、様子などを、24時間生活シート等に記録して、思いや希望の把握につとめ、職員間で共有している。困難な場合は、家族の気持ちやこれまでの利用者の行動などから本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接にて情報を収集し、フェースシートを作成、スタッフ間で共有しています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日課はありますが、本人のリズムを尊重しケアしています。ご本人の心身状態をスタッフ間で申し送り、残存機能の維持に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開催、計画の変更の必要な方について検討しています。協力病院の医師、家族へは随時報告、意見を伺い計画に反映するよう努めていますが、家族の意見を伺うタイミングについて今後改善が必要であると考えます。	本人や家族、主治医の意見を参考にして、職員で話し合い、介護計画を作成している。毎月の担当者会議で介護計画を検討し、6ヶ月ごとにモニタリングを実施し一年ごとに介護計画を見直している他、状況に変化が生じた場合は、その都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活シートを活用し、何気ない言葉も記録してケアに活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	川崎観音へ月に1度のお参りを援助したり、山崎八幡宮、政所稲荷の祭事などに参加するなど地域資源を活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご利用者、ご家族の意思を尊重しています。受診の際には基本は家族へ依頼、必要に応じて送迎など支援しています。緊急時には協力病院へ連絡、受診、往診とご協力いただいています。	利用者、家族の希望する医療機関の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得て受診の支援をしている。緊急時には協力医療機関の往診や受診の対応があるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の契約医の定期往診時に相談報告をするようにしています。必要に応じて訪問看護ステーションに相談、助言を依頼しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にご家族へ連絡をし近況を伺い、できるだけお見舞いに伺い、状況把握に努めています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに向けてのご家族、ご利用者へのアンケートの実施。ターミナルケアについての勉強会の実施。ターミナルケアへの移行が予測される方については医師、家族を交え担当者会議を開催、家族ご本人の意向を踏まえ方針を決めています。	重度化や終末期の指針があり、家族へのアンケート実施や看取りについて職員の研修を実施している。重度化した場合には、早い段階から家族、主治医、職員等で話し合い、方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットを活用し、職員会議において検討、再発防止に努めています。緊急時の対応、応急処置などは職員会議において研修を行っています。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、職員会議で事故防止策を検討し、全職員で共有して、再発防止に取り組んでいる。緊急時の対応や心肺蘇生法や誤嚥等応急手当の研修を行い、実践力が身につくように取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、夜間を想定した避難訓練も実施しました。火災時には近隣住民の方のご協力をいただくよう呼びかけています。地震、水害への対策についてはマニュアルを作成しています。	年2回昼夜を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っている。近隣の住民の参加を得て、避難した利用者の見守りや消火訓練を行っている。地震や水害対策についてマニュアルを作成し、地域住民の協力についても話し合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいますが困難な場合が多いと感じます。排泄の確認の際、難聴の方に対して大きな声を出さざるを得ないこともあったり、危険を伴う際には安全を優先させていただいています。	一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけをし、支援しています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状としてスタッフ側の都合を優先してしまう場面も多々ありますが、できるだけお一人お一人のペースを大切にしよう心掛けています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはご自分で選べる方には選んでいただき、ご自分では困難な方については同じ服にならないよう配慮しています。女性には行事の際にはお化粧品をしていただくなどおしゃれを楽しんでいただきたいと支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けなど、出来る方が限られています。食事はスタッフが一緒にいただき、会話を楽しみながら楽しい雰囲気作りに努めています。また誕生日のお寿司やお赤飯など行事食をできるだけ取り入れて季節感や特別感を演出するよう努めています。	主菜は併設事業所の厨房からの配食を利用し、その他は事業所で調理している。利用者は下ごしらえ、配膳、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒に食事をして、会話を楽しみながら食事を楽しめるように支援している。おやつづくりや誕生日のケーキ、行事食など食事を楽しむ機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認。必要な方については水分摂取量も確認。 管理栄養士による献立の作成。 月に2回体重測定を行い体重の増減のチェック。必要であれば食事量を調整。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、入れ歯を使用されている方については夜は洗浄剤を使用し清潔に努めています。 必要があれば随時歯科受診を支援しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは極力使用せず、お一人おひとりの排泄パターンに沿ってトイレへ誘導。最近では失禁をされる方が多く、ほぼ全員の方がトイレへの声掛けを必要とされています。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけや見守りをして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動の実施、オリゴ糖の使用、腹部マッサージなどできるだけ薬に頼らない排便を目指していますが便秘の方が多いのが現状です。運動が足りていない方も多数おられます。長期間排便のない方については協力医、看護師へ随時連絡し、指示を仰いでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日の入浴ですが、個々の状態に応じて対応しています。できるだけご希望に添えるよう配慮していますが、水虫等の疾患のためこちらで順番を決めさせていただく場合もあります。	入浴は、毎日15時から18時頃までの間可能で、一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴をしたくない人には声かけの工夫やタイミングを見計らったり、職員が交替して対応するなどの支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きていただき、夜間十分な睡眠がとれるよう努めていますが、ご利用者の高齢化に伴い日中横になることを希望される方もおられますので、その際には夜間の睡眠に影響が無い程度で休んでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し活用しています。副作用については特に注意が必要な場合は職員会議の席などでスタッフ全員に周知できるよう努めています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドリルや手伝いなどの役割をお願いするなど、張り合いを持っていただけるよう支援しています。またレクリエーションや季節ごとの行事などで季節感を感じていただくよう努めています。	毎月開催している「とーか市」の手伝い、野菜の下ごしらえ、調理の手伝い、テーブルふき、洗い物、洗濯物たたみ、掃除機かけ、歌や体操、DVD視聴、テレビ視聴、ドリル、レクリエーション、季節行事、散歩や外出など、一人ひとりに応じた楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で遠くへお出掛けや外食に行くときなどはご家族にもできるだけご参加いただいています。又近所を散歩したり、買い物に行かれる際には地域の方々のご協力をいただいています。	地域のスーパーでの買い物や散歩、周辺寺社の縁日やお祭り等に出かけている他、家族会が主催する小旅行、家族の協力を得ての季節の花見やドライブ、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は少なくほとんどお預かりしています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的ではありませんが要望があれば支援しています。また母の日などにはご家族にカードを書いていただき、皆様大変喜ばれていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・カレンダー・壁面を季節感のある作品で飾ったりしています。清掃には気を配り、ご利用者、来所者が不快なおいなど感じないように努めています。室温、湿度に気を配り、窓の開閉、エアコンなどを使用し調整しています。	食堂やリビングは明るく清潔で、音頭や湿度に配慮し、季節の花を飾り、壁面には季節感のある作品を飾っている。団欒のためのソファや椅子を配置し、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。託児所の子供達とのふれあいもあり、和やかに居心地良く過ごせるよう支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室、廊下の椅子、玄関のテーブルと椅子などゆっくりと過ごしていただく場所の工夫をしています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のあるものを居室に置いて頂いています	居室には自宅で使い慣れた馴染みのものや思い出のあるものを持ち込み、家族の写真や利用者の作品を飾るなどして、本人が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下駄箱に名前・たんすには何がしまっているか書くことで、できることはできるだけ自分でしていただくよう支援しています。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームとーか

作成日: 平成 26年 10月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	61	利用者様が訪れたい人・場所へ行けていない。	思いの把握に努め、実践に移す	職員全員が聞き取りや会話の中から把握する。 会議で取り上げ計画を立て実行する。	1ヶ月
2	4	外部評価の項目の理解が十分に出来ていない。	項目の内容の理解	ガイドライン等を活用し、会議時に徹底する	1ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。